川崎病頸部リンパ節微小血管の電子顕微鏡的検討

武村民子

要約：川崎病急性期頸部リンパ節の微小血管は内皮細胞の腫大，内皮細胞内のファゴゾームの増加，基底膜の疎解と多層化が認められ，初期の全身性滲出性変化を反映する所見であった。

見出し語：川崎病，頸部リンパ節，血管病変，電子顕微鏡

【目的と対象・方法】

川崎病の原因は未だ明らかにされていないが，急性期には全身性に滲出性vasculitisが生ずることが指摘されている。臨床的には急性期頸部リンパ節の腫脹は必発であるが，リンパ節内の微小血管変化を明らかにするために3例の川崎病頸部リンパ節を検索した。症例は9ケ月男児（第7病日，採取），11ケ月男児（第6病日，採取），3歳男児（第9病日，採取）より採取された頸部リンパ節について型通り電顕的検索を行なった。

【結果】

3例中1例にフィブリン析出と個々のリンパ球の壊死がみられたが，3例ともに軽度のsinus histiocytosis，皮質二次小節の胚中心の軽度肥大を認めた。電子顕微鏡的に皮質毛細血管は内皮細胞の腫大を示し，ときにフィブリンの貪食や，myelin figureを含むファゴゾームがみられ，基底膜は疎解が著しく，所々多層化がみられた。内皮下にはelectron-dense depositは認められなかった。

【考察】

川崎病の急性期の頸部リンパ節の微小血管の変化は滲出性病変であり，内皮細胞の変化が強く，内皮細胞に傷害を及ぼす局所的ならびに全身性の因子（ウィルスや細菌も含めて）が病変成立に関与すると考えられる。

日本赤十字社医療センター
中央検査部　病理

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:川崎病急性期頸部リンパ節の微小血管は内皮細胞の腫大,内皮細胞内のファゴゾームの増加,基底膜の疎解と多層化が認められ,初期の全身性滲出性変化を反映する所見であった。